

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成26年5月8日 (2014.5.8)

【公表番号】特表2013-522369(P2013-522369A)

【公表日】平成25年6月13日 (2013.6.13)

【年通号数】公開・登録公報2013-030

【出願番号】特願2013-501398(P2013-501398)

【国際特許分類】

C 0 7 C 401/00 (2006.01)

C 0 7 F 7/18 (2006.01)

A 6 1 K 31/593 (2006.01)

A 6 1 P 17/06 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 P 13/12 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 37/06 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 11/06 (2006.01)

A 6 1 P 1/04 (2006.01)

A 6 1 P 17/16 (2006.01)

A 6 1 P 17/08 (2006.01)

A 6 1 P 19/10 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 C 401/00

C 0 7 F 7/18 A

A 6 1 K 31/593

A 6 1 P 17/06

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

A 6 1 P 13/12

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 3/10

A 6 1 P 37/06

A 6 1 P 29/00 1 0 1

A 6 1 P 19/02

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 1/04

A 6 1 P 17/16

A 6 1 P 17/08

A 6 1 P 19/10

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月19日 (2014.3.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

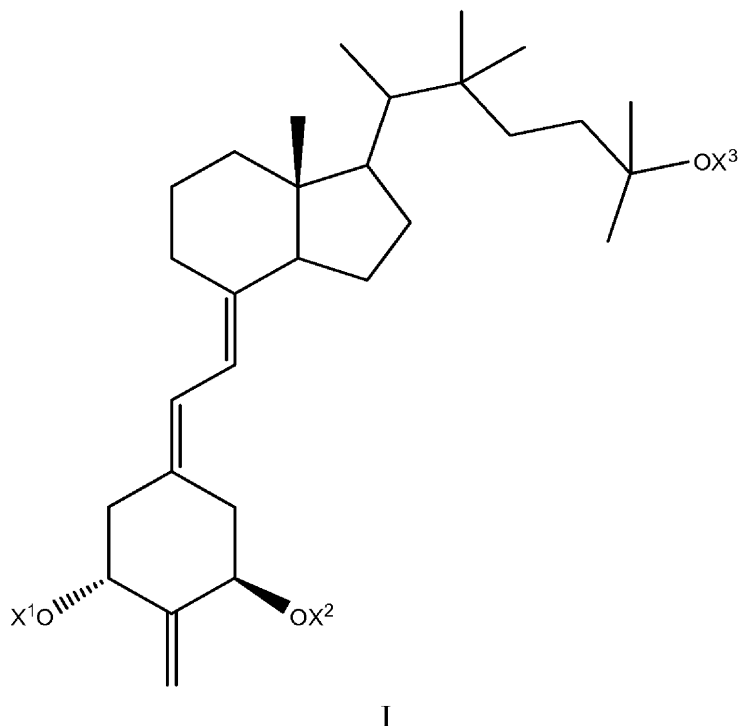
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 I を有する化合物：



式中、 X^1 、 X^2 、および X^3 は、独立して H およびヒドロキシ保護基から選択される。

【請求項 2】

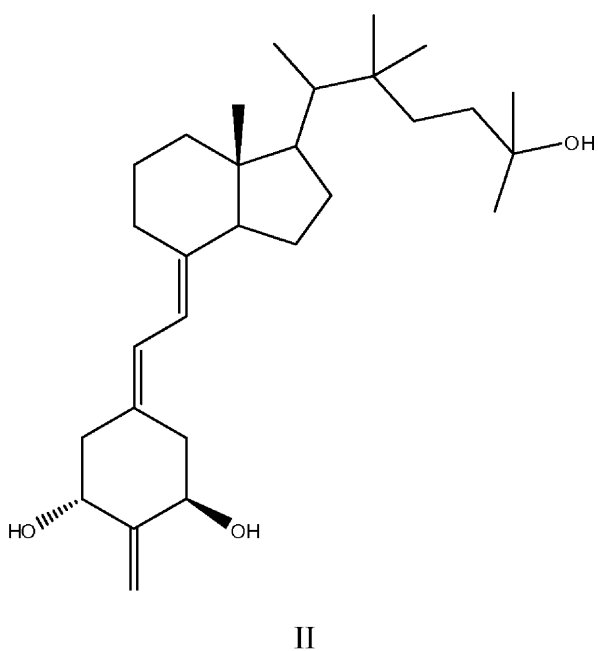
X^1 および X^2 が、両方ともヒドロキシ保護基である、請求項 1 記載の化合物。

【請求項 3】

X^1 および X^2 が、両方とも *t*-ブチルジメチルシリル基であり、かつ X^3 がトリエチルシリル基である、請求項 2 記載の化合物。

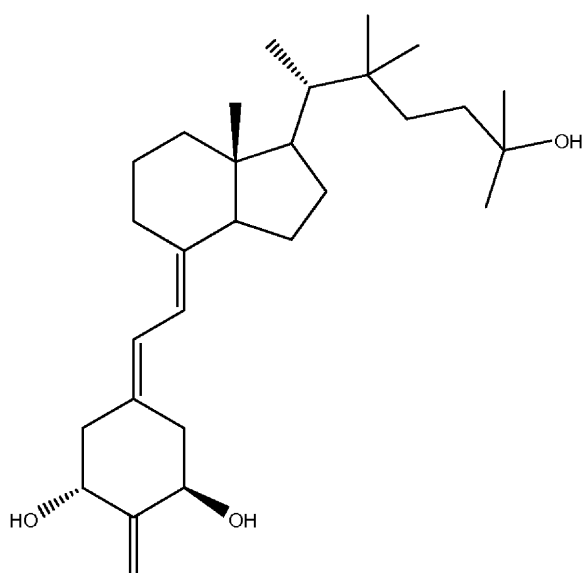
【請求項 4】

式 II を有する化合物：



【請求項 5】

式 I I A を有する、請求項 4 記載の化合物：

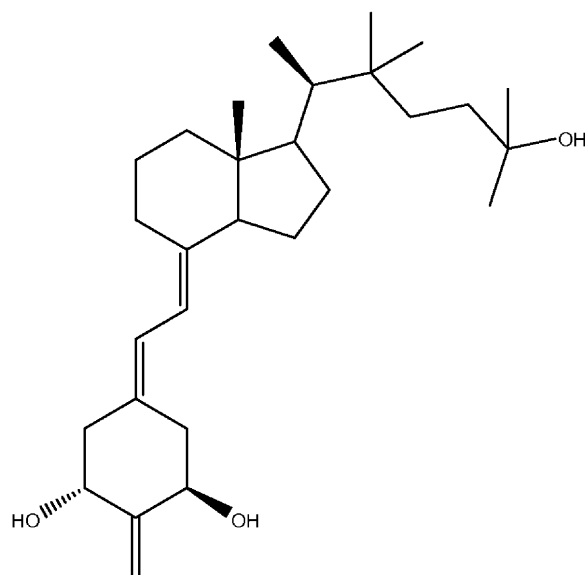


IIA

。

【請求項 6】

式 I I B を有する、請求項 4 記載の化合物：

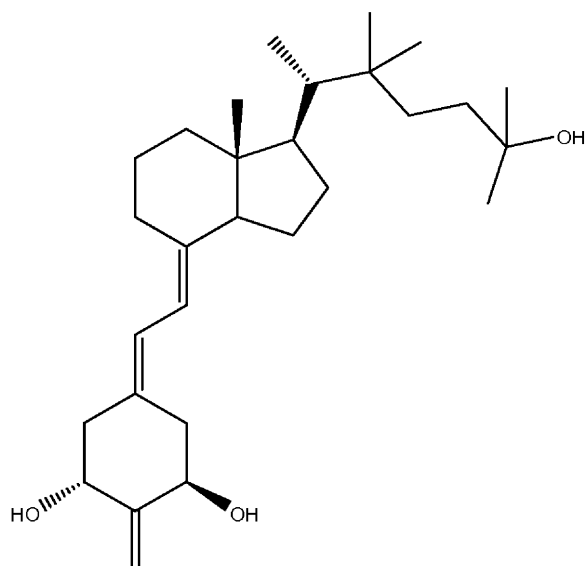


IIB

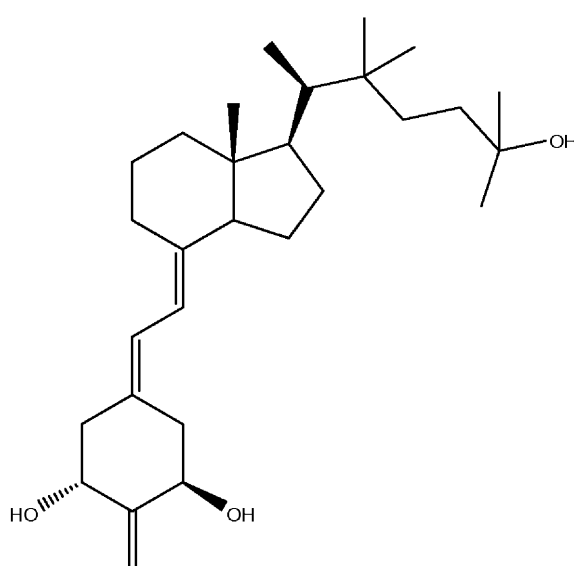
。

【請求項 7】

式 I I C または I I D を有する、請求項 4 記載の化合物：



IIC



IID

。

【請求項 8】

請求項 4～7 のいずれか一項に記載の化合物の有効量と、薬学的に許容される担体とを含む、医薬組成物。

【請求項 9】

前記有効量が、組成物 1 グラムあたり約 0.01 μg ～約 1 mg の化合物を含む、請求項 8 記載の医薬組成物。

【請求項 10】

前記有効量が、組成物 1 グラムあたり約 0.1 μg ～約 500 μg の化合物を含む、請求項 8 記載の医薬組成物。

【請求項 11】

請求項 4～7 のいずれか一項に記載の化合物の有効量を含む、生物学的状態を患う対象を治療するための医薬組成物であって、該生物学的状態が、乾癬；白血病；結腸がん；乳がん；前立腺がん；多発性硬化症；ループス；真性糖尿病；宿主対移植片反応；臓器移植片拒絶反応；関節リウマチ、喘息、もしくは炎症性腸疾患から選択される炎症性疾患；しわ、適切な皮膚の引き締まりの欠如、適切な皮膚水分量の欠如、もしくは不十分な皮脂分泌から選択される皮膚の状態；腎性骨ジストロフィー；または骨粗鬆症から選択される、医薬組成物。

【請求項 12】

前記生物学的状態が乾癬である、請求項 11 記載の医薬組成物。

【請求項 13】

前記生物学的状態が、白血病、結腸がん、乳がん、または前立腺がんから選択される、請求項 11 記載の医薬組成物。

【請求項 14】

前記生物学的状態が、多発性硬化症、ループス、真性糖尿病、宿主対移植片反応、または臓器移植片拒絶反応から選択される、請求項 11 記載の医薬組成物。

【請求項 15】

前記生物学的状態が、関節リウマチ；喘息；またはセリアック病、潰瘍性大腸炎、およびクローン病から選択される炎症性腸疾患から選択される、請求項 11 記載の医薬組成物。

。

【請求項 16】

前記生物学的状態が、しわ、適切な皮膚の引き締まりの欠如、適切な皮膚水分量の欠如、または不十分な皮脂分泌から選択される、請求項 11 記載の医薬組成物。

【請求項 17】

前記化合物が対象に経口投与されるように用いられる、請求項 11 記載の医薬組成物。

【請求項 18】

前記化合物が対象に非経口投与されるように用いられる、請求項 11 記載の医薬組成物。

【請求項 19】

前記化合物が対象に経皮投与または局所投与されるように用いられる、請求項 11 記載の医薬組成物。

【請求項 20】

前記化合物が、1 日につき $0.01 \mu\text{g}$ ~ 1 日につき 1mg の投与量で投与されるように用いられる、請求項 11 記載の医薬組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

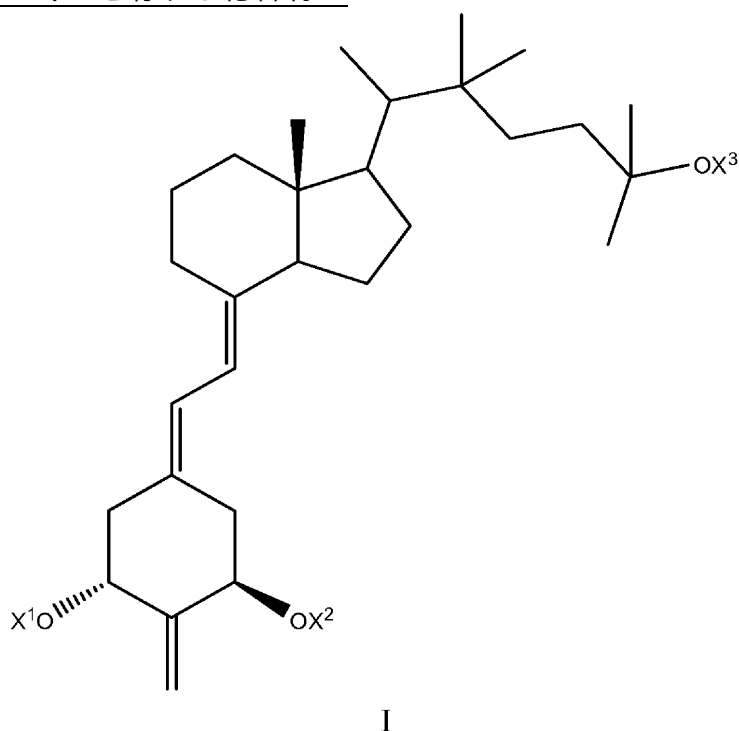
【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

[本発明1001]

式 I を有する化合物：



式中、 X^1 、 X^2 、および X^3 は、独立して H およびヒドロキシ保護基から選択される。

[本発明1002]

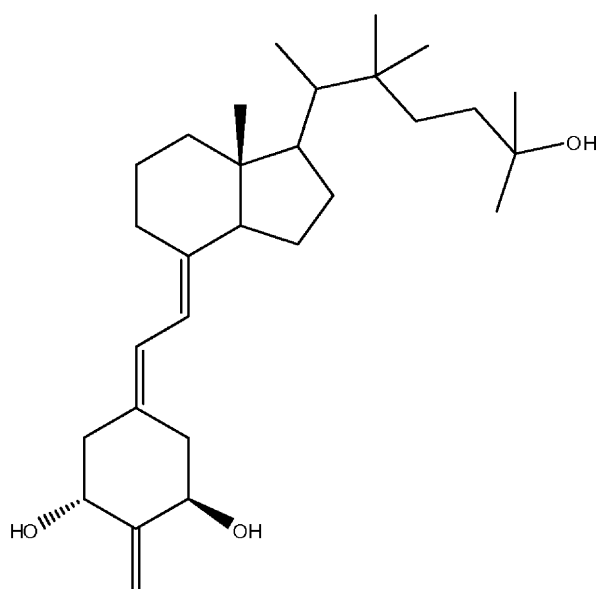
X^1 および X^2 が、両方ともヒドロキシ保護基である、本発明1001の化合物。

[本発明1003]

X^1 および X^2 が、両方とも t - ブチルジメチルシリル基であり、かつ X^3 がトリエチルシリル基である、本発明1002の化合物。

[本発明1004]

式 II を有する化合物：

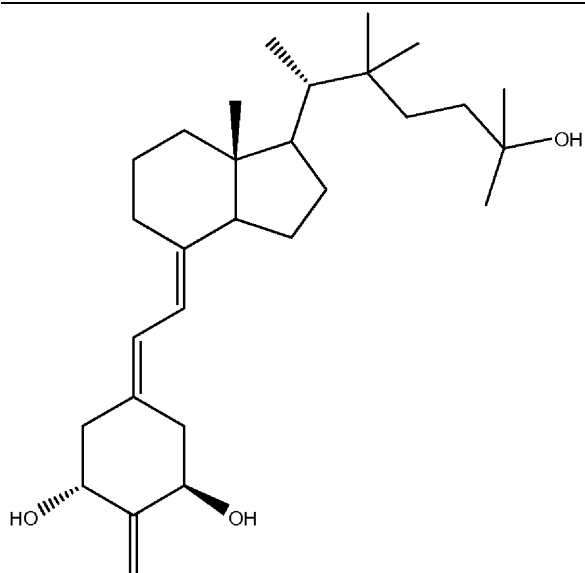


II

°

[本発明1005]

式 I I A を有する、本発明1004の化合物：

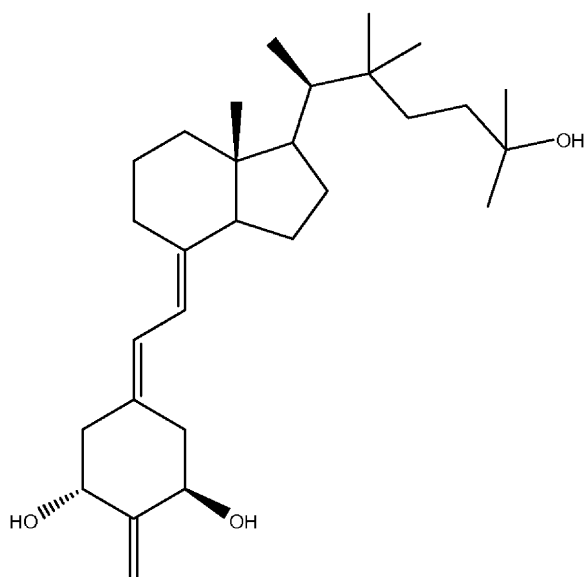


IIA

°

[本発明1006]

式 I I B を有する、本発明1004の化合物：

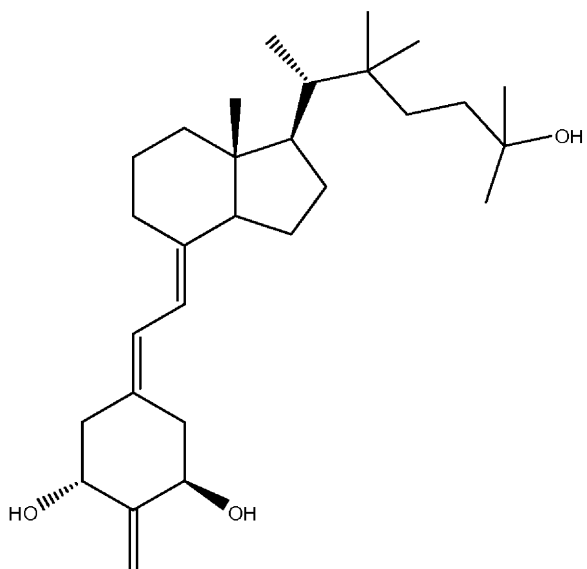


IIB

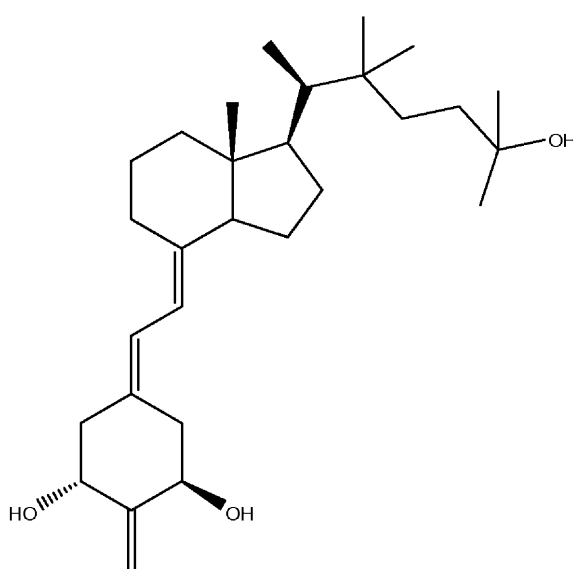
°

[本発明1007]

式 I I C または I I D を有する、本発明1004の化合物：



IIC



IID

°

[本発明1008]

本発明1004～1007のいずれかの化合物の有効量と、薬学的に許容される担体とを含む、医薬組成物。

[本発明1009]

前記有効量が、組成物1グラムあたり約0.01 μg～約1mgの化合物を含む、本発明1008の医薬組成物。

[本発明1010]

前記有効量が、組成物1グラムあたり約0.1 μg～約500 μgの化合物を含む、本発明1008の医薬組成物。

[本発明1011]

本発明1004～1007のいずれかの化合物の有効量を対象に投与することを含む、生物学的状態を患う対象を治療する方法であって、該生物学的状態が、乾癬；白血病；結腸がん；

乳がん；前立腺がん；多発性硬化症；ループス；真性糖尿病；宿主対移植片反応；臓器移植片拒絶反応；関節リウマチ、喘息、もしくは炎症性腸疾患から選択される炎症性疾患；しわ、適切な皮膚の引き締まりの欠如、適切な皮膚水分量の欠如、もしくは不十分な皮脂分泌から選択される皮膚の状態；腎性骨ジストロフィー；または骨粗鬆症から選択される、前記方法。

[本発明1012]

前記生物学的状態が乾癬である、本発明1011の方法。

[本発明1013]

前記生物学的状態が、白血病、結腸がん、乳がん、または前立腺がんから選択される、本発明1011の方法。

[本発明1014]

前記生物学的状態が、多発性硬化症、ループス、真性糖尿病、宿主対移植片反応、または臓器移植片拒絶反応から選択される、本発明1011の方法。

[本発明1015]

前記生物学的状態が、関節リウマチ；喘息；またはセリアック病、潰瘍性大腸炎、およびクローン病から選択される炎症性腸疾患から選択される、本発明1011の方法。

[本発明1016]

前記生物学的状態が、しわ、適切な皮膚の引き締まりの欠如、適切な皮膚水分量の欠如、または不十分な皮脂分泌から選択される、本発明1011の方法。

[本発明1017]

前記化合物が対象に経口投与される、本発明1011の方法。

[本発明1018]

前記化合物が対象に非経口投与される、本発明1011の方法。

[本発明1019]

前記化合物が対象に経皮投与または局所投与される、本発明1011の方法。

[本発明1020]

前記化合物が、1日につき0.01 μ g ~ 1日につき1mgの投与量で投与される、本発明1011の方法。

本技術のさらなる特徴および効果は、以下の詳細な説明および図面から明らかになるであろう。